

谷口委員

まず最初に、大卒のところからお話を伺っていきたくとも、今日は二つの報告、大きく神奈川県の内り方の検討についてというのと、緊急財政対策本部の報告がありました。

内り方の検討についてのところでは、知事もおっしゃられているように、独立国という話をされています。一方で、調査会の方では、なるだけ県の関与をなくしていくという方向性があり。この二つというのは、独立国を目指すのであれば、県の関与をきちっと残しておかなきゃいけないわけで、この内り方の検討のところと、それから調査会の方向性は、全く逆の方向を向いているというイメージがあるんですけども、この矛盾について当局としてはどういうふうに捉えていらっしゃるんですか。

広域連携課長

今、委員からお話がありましたように、これからの神奈川県の内り方の検討につきましては、大都市制度をはじめとした行財政体制に対してどのような形で本県が当たっていくのかということ、あるいは県がこれから重点的に取り組んでいく役割、そういった観点からの検討も踏まえた上で取りまとめていくというふうに考えてございます。

今お話がありましたように、緊急財政対策につきまして、県有施設等について関与を薄くといいますか、そういった御意見が今あるということでございますけれども、県有施設の内り方につきましても、これからも県の機能の一部であろうというふうに考えてございますので、そこは、県として、本部の考え方をこれからの内り方の検討とも十分すり合わせをして、今お話のございましたような疑念を皆様方に与えないような議論をしっかりとしていきたいと考えております。

谷口委員

知事ははっきり独立国というような言い方をされていますし、こっちの方とはにかく関与をなくして、県の負担をなくしていきたいということをはっきりおっしゃられているわけで、知事はどっちの方向を進もうとしているのか、よく分からないんです。

ですので、その辺のところをしっかりと説明をしていただかなきゃいけないというふうに思うんですけども、もう一度答弁願います。

広域連携課長

これからの神奈川県の内り方につきましては、県としていろんな機能がございます。県施設が全てなくなると、そういう議論をしているわけではございませんので、これから限られた権限をいかに国から県の方に持ってくるか。あるいは、税源についても、今中心に議論をされているような制約のある中で、県としてどこに中心的な機能を求めていくのか、そういったことも含めた形で、今後の内り方については検討していきたい。

最終の出来上りのところでは、緊急財政対策本部での議論としっかりと整

合をとるような形で、今お話のあったようなことについて、これからの議論でございまして、今までの御意見もきちんと踏まえた形で取りまとめていきたいと考えているところでございます。

谷口委員

言っている意味がよく分からない。

鈴木委員

今、課長たちの言っていることが全然分からない。要は、黒岩知事の目指しているのは、独立国だと言っているわけだよ。片やこちらの答弁では、どんどん削っていくんですよと。なるべく県の関与はなくなっていますと。今、課長の言った、最後は調整をなんて、調整なんかじゃない。将来独立をしていくというようなことは、今から整合性を持たせておかなかつたら困るのではないのですか。

予算調整課長

神奈川県がきちんとした行財政制度の中で、今後の神奈川県を支えていくべききちんとした行財政基盤をつくっていくということが基本的な目的でございます。

そういう意味では、これからの神奈川県の在り方の検討と重なっているものというふうに考えます。

鈴木委員

それは、課長、全然話が違うんじゃないのですか。今ここで課長がさっきから一生懸命言っているよね。これじゃ、一体そもそもの調査会というのは何のためにあるのですか。そもそもはビジョンが何もなくて、調査会がこちらからあって、こんなことを言う。さっきから課長たちの発言を聞いていると、広い立場でとか、叱ったを頂くとか。叱ったなんかもらわなくたっていいではないですか。そういうためにこれだけのお金をかけてやるので、何のビジョンもない中で調査会って、そういうグループをいっぱいつくっていったって、何も変わりはない。私は、課長たちの発言が何をさっきから言っているんだろうと思います。本来なら課長たちだって、規則等の縛りがなければ、いろんなことをやりたいのではないのですか。ところが、全部規制があるからできないでしょう。それに対して、どんどん具体案が出てくるんだったら私は分かる。ですけれども、このそもそもの論議というのは、この二つが、片やどういふものを黒岩知事が目指しているんですかと。それに対して、今現状はこうだから、このようにしていくという論議がなかったならば、この二つなんて全然合わないのではないのですか。

政策局長

今の委員の御議論というのはそのとおりだと思っております。それで、私もとしては、確かにこの在り方検討の話、それから緊急財政対策本部は、先ほど課長の方から、短期的、中期的、これは両方優劣がないというふうに話をしていますけれども、第1回の調査会では、まずは短期的なものをちゃんとまとめましょうという委員の意見も実はございます。在り方の方が、中長期的なものもあるあし、それからこの緊急財政対策本部はまずは短期的なものをまとめるという考えもありますけれども、ただ、緊急財政対策本部で出先機関の在り

方をどうする、県民利用施設の在り方をどうする、補助金の在り方をどうするという、まずこの点については、県は今後どうあるべきかという議論が大事ということと思っています。

ですから、並行的にこれからの県の在り方プロジェクトチームで検討していただきますけれども、この検討の内容とこれから調査会の意見を受けてやる緊急財政対策本部でやること、軌を一にしてやるべき内容になってくるのかなと思っています。

ただ、今具体的にそれはどうのこうのというのは、言える段階にはないということをごさいますして、今後検討してまいりたいというふうに思っています。

鈴木委員

この場で言える言えないという問題だったら、何でそんなようなことをオープンにして出すのですか。そもそもがこの論理は、むちゃくちゃな論理だとは思わないですか、局長。今私は、さっきから局長の答弁を聞いていてちょっと分からないのは、先ほど齋藤委員がおっしゃっていたけれども、そもそもが、要するに調査会の委員の方たちに何をベースに議論をしてくださいということがあったらろうと。例えば、これだけの臨時財政対策債があると、先ほど資金調査課長が言っていた。そして、なおかつこれだけ実際に職員を削減して、全国一少ない。こういう状況下の中でもって、どうしていくのかを検討してくださいということがちゃんと伝わっているのですか。

政策局長

委員の皆様には、調査会のときだけではなくて、事前にいろいろ御説明させていただいていますし、今言った県の財政の状況、それから神奈川県が今抱えている課題、そういったものを全て御説明した上で、いろいろ御議論をいただいているというふうに伺っております。

鈴木委員

多分それは本当かどうか、私も分からないけれども、それであるならば、そこまで配ってこういう意見が出てくるんだとしたら、実際に大きなきちっとしたターゲットがなかったら、これをどれだけ積み重ねたって何も出ない。失礼ですけれども、これだけ優秀な方々が集まった意見は意見としたって、常識で考えたってそこにたどり着かないでしょう。みんなここにいる人だって、委員一人一人だってここに書いたのはそのとおりだと思うよ。誰もそうじゃないという人はいないと思う。ところが、もうさっきからお話ししているのは、道州制なり知事の独立国だとかというものが一つありながら、その中で、これがどういう関連を付けるのかというものに全部ならなければ、要するにターゲットがあって、フレームの枠がなかったら、今後どれだけ論議したって、それは申し訳ないですけれども、こういうただの論議だけになります。これきちっとした形を出すというのであるならば、本来としたら、こういう例えば調査会の意見というのもあったとしても、もっと違う形で集約されて、ターゲットに向けてここですというような出し方を、私はすべきだと思うんですけれども、どうですか。

政策局長

調査会としてのまとめということでの回答をさせていただきますけれども、

先ほど申し上げたように、調査会というのはまだ2回目でございます、それも2回目の中でいろんな意見が今出ているという段階で、最終的に2回目までの中間意見とまとめは3回目になります。

それから、先ほどいろいろ意見の中にありましたように、県だけでできること、そうではないことというのは、これからそういう地方財政制度の問題についても御議論いただく。そのための専門的な委員の方も入っていただいていますので、それは3回目以降で御議論いただくというふうに今のところ考えておりますので、最終まとめの段階では、当然そういう流れの中でつくっていく形になるのかなというふうに思っております。

鈴木委員

この論議というのは、机の上にある左にあるものと右にあるものをどう整合性をどうとっていくのか、このことについては、局長、よく考えられた方がいいですよ。知事も、失礼ですけれども、きちっとした形でどういうものを目指した中のどうなんだというものを出さないといけない。論議を我々だってできないですよ、これでは。ふもとのところで、みんなどうだどうだと言っているんだもの。どこに向かって、それがこうじゃないですかというのは、議会と知事との在り方の中でベースそのものが見えないとどれだけ論議したって、それは私は本当に無駄なことのような気がしてしょうがないです。

谷口委員

私は何か危惧しているんですけれども、スマートエネルギー構想と同じようなわだちを踏むんじゃないかという感じがしています。ばんとぶち上げて、落としどころが分からないまま、とにかく走れという感じになるような危惧を持っています。本当に無駄なエネルギーを割いてしまう、スマートなエネルギーの使い方じゃない、そういう感じがしています。ですので、知事はとにかくそういう手法なんでしょうけれども、余りにも拙速過ぎるし、余りにもアドバラン的に打ち上げて、最終的に落としどころを分からないまま、とにかく走ってしまう。そんな感じがして、結局何も進まなかったという結論になるんじゃないかなというふうに危惧をしております。

例えば補助金のところでも、予算調整課長が丁寧に説明をしていきますというふうにお話をされています、各団体についてはですね。これは膨大な数の補助金を受けている団体があると思いますし、それを一つ一つどうやってこの短期間のうちに、秋口にまとめると言っていますけれども、予算編成までに、どうやって丁寧に説明をしていくのか。また、市町村の補助金についても、補助率を下げるとかそういうことではなくて、事業自体をやめてしまうということもあり得るといってお話をされていましたがけれども、市町村は、事業を続けざるを得ないんです。県の補助金がなくなっても、では、その事業をやめますというわけにはいかないわけで、そういうところをしっかりと押さえていただきながら、これは本当に丁寧にお願いします。

また、この情報発信の仕方も、この前の委員の皆様の質疑にありましたけれども、しっかりとやっていただくようにお願いします。